

ARIBからの
お知らせ

GSC-12会合「User Workshop」開催のお知らせ

Global Standards Collaboration (GSC：世界通信標準化協調会合) は、通信関係標準化団体が相互の連携強化とITU等の国際標準化の一層の活性化を目的として、情報及び意見を交換する会合です。今年は社団法人電波産業会と社団法人情報通信技術委員会(TTC)の共催で7月8日より13日まで神戸で第12回会合(GSC-12)を開催し、電気通信・無線通信に関して様々な技術的課題と標準化の動向について情報交換を行います。

GSC-12会合では、日程の一部として、ユーザーと標準化の関わり合いについて広く意見交換を行う場として、「User Workshop」を下記の要領で開催いたしますので、広く皆様の参加をいただきますよう、ご案内申し上げます。

なお、詳細プログラムおよび申し込み方法は、ARIBホームページのお知らせ・セミナー講演会等開催案内のページに掲載致しますので、ご参照ください。

<http://www.arib.or.jp/osirase/seminar/index.html>

記

- 1 日時 平成19年7月12日(木) 9:00から17:20まで
- 2 場所 神戸国際会議場 4階 「401会議室」
神戸市中央区港島中町6-11-1
電話：078-302-1020 FAX：078-302-1870
- 3 共催 社団法人電波産業会
社団法人情報通信技術委員会
情報通信アクセス協議会(事務局：情報通信ネットワーク産業協会)
- 4 テーマ “User’s Accessibility of Telecommunications”
- 5 参加者 電気通信の利用者、関連する産業界及び一般の方々
- 6 言語 発表および質疑応答は、すべて英語で行います。
通訳はございませんので予めご承知置き願います。
- 7 定員 70名
- 8 申込先 ARIBホームページで参加受付します。
- 9 参加費 無料(事前登録制)

10 問合せ先 社団法人電波産業会 企画国際部 鈴木、佐々木

TEL (03) 5510-8592 E-mail : gsc12-reg@arib.or.jp

<会場への交通ご案内>

JR三ノ宮駅からポートライナーで(市民広場駅下車)で10分

JR新神戸駅から地下鉄(三宮駅乗り換え)ポートライナーで20分

神戸空港からポートライナーで(市民広場駅下車)で8分

関西国際空港からリムジンバス(三宮乗り換え)ポートライナーで80分

A R I Bの動き

周波数資源開発シンポジウム2007が開催される

去る6月8日、独立行政法人情報通信研究機構(NICT)及び社団法人電波産業会主催、総務省後援による「周波数資源開発シンポジウム2007」が「コグニティブ無線通信研究開発と国際標準化の動向」というテーマで明治記念館の富士の間(1) (港区元赤坂)において開催されました。

本シンポジウムは、近年、社会の情報化の進展により電波利用が益々多様化する中で、周波数の効率的な利用等の周波数資源開発を推進することを目的に開催しています。

今年、独立行政法人情報通信研究機構の稲田理事が開会の挨拶を行い、来賓として総務大臣政務官の谷口和史様からご挨拶をいただいた後、総務省総合通信基盤局の奥英之移動通信課長から「移動通信をめぐる最新の動向：コグニティブ無線に関する取組み等」、新潟大学工学部の佐々木重信准教授から

「IEEE 802.22におけるコグニティブ無線標準化について」、サリー大学Mobile VCEのDr. Klaus Moessner主任研究員から「ヨーロッパにおけるコグニティブ無線の研究開発活動」、KDDI研究所開発センターの野原光夫ITS・ワイヤレスグループリーダーから「コグニティブ無線：ネットワーク適用の観点から」、ラトガス大学WINLABのDr. Narayan Mandayam教授から「米国におけるコグニティブ無線の研究開発：概要、課題と方向性」、独立行政法人情報通信研究機構の加藤修三プログラムディレクターから「スペクトラム有効利用のためのコグニティブ無線：種々の定義と可能性」との演題で有意義なご講演を頂きました。

当日は、ほぼ満席の大盛況の中で開催されました。



周波数資源開発シンポジウム2007会場の様子と
(独)情報通信研究機構 稲田理事、谷口総務大臣政務官



総務省総合通信基盤局
移動通信課長 奥英之様



新潟大学 工学部
准教授 佐々木重信様



サリー大学 Mobile VCE
Dr. Klaus Moessner



KDDI研究所 開発センター
グループリーダー
野原光夫様



ラトガース大学 WINLAB
Dr. Narayan Mandayam



(独)情報通信研究機構
プログラムディレクター
加藤修三様

電気通信・放送
行政の動き

技術試験衛星VIII型(E T S - VIII)及び超高速インターネット衛星(W I N D S)
利用実験に関する募集結果
(6月4日付け総務省報道発表から)

総務省は、平成19年2月1日から同年3月30日まで募集を行った技術試験衛星VIII型(E T S - VIII)及び超高速インターネット衛星(W I N D S)の利用実験に

関する提案を次のとおり採択しました。

1 経緯

総務省では、宇宙通信技術の有用性の実証及び新たな衛星アプリケーション開発の推進を図ることを目的として、国の研究開発衛星を利用した実験に参加する機会を広く産学官の関係者に提供することとしています。

同省では、平成18年12月に打上げられた移動体衛星通信技術等の確立を目指した技術試験衛星VIII型(E T S - VIII)及び今年度打上予定の超高速の固定衛星通信技術の確立を目的とした超高速インターネット衛星(W I N D S)に関する利用実験の募集を、本年2月1日から3月30日まで行いました。

その結果、E T S - VIIIの募集については13件、W I N D Sの募集については53件の応募があり、5月30日に開催された衛星アプリケーション実験推進会議(会長：高畑文雄早稲田大学教授)における審議結果を踏まえ、全ての提案について採択を決定しました。

なお、E T S - VIII利用実験については、平成15年に採択済みの22件のうち、9件が取り下げを行ったため、合計の採択件数は26件となりました。

※ 採択状況概要

E T S - VIII；利用実験分野別件数(実験プロジェクトによっては重複カウント有り)

合計	伝搬	防災	医療	教育	その他
31	14	2	2	4	9

W I N D S；提案者国別件数

合計	日本	タイ	インドネシア	マレーシア	フィリピン	シンガポール	中国	その他
5 3(注)	2 6	1 1	3	3	2	2	1	5

(注)うち国際共同実験(他国との共同実験)は30件

W I N D S；利用実験分野別件数(実験プロジェクトによっては重複カウント有り)

合計	伝搬	防災	医療	教育	その他
61	14	8	6	18	15

2 利用実験採択一覧

下記の一覧は総務省報道資料を参照願います。

- E T S - VIII利用実験一覧

(http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/pdf/070604_4_1.pdf)

- W I N D S利用実験一覧

http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/pdf/070604_4_2.pdf

(参考) E T S - VIII及びW I N D Sの概要

http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/pdf/070604_4_3.pdf

3 今後の予定

今後、利用実験に向けて実験計画の具体的な検討や地球局等の設備の準備が進められる予定です。

なお、現在、E T S - VIIIに発生している受信系通信機器の異常については、予定している実験が実施できるように関係機関と協力し、代替装置等利用実験の実施環境の整備を図ることとしています。

編集後記

時の経つのは早いもので、4月よりARIBに着任し、ARIBニュース編集の初回免除特典も過ぎ、今回が編集デビューとなりました。今後ともよろしくお願い致します。大きなイベント「電波の日記念講演会」が盛況に終わり、ARIBにも慣れてきたころです。前任者からは、是非レベルアップし、前任者を超えるよう期待されておりますが、講演会の報告書をまとめたところ、残念ながら参加者人数が7名ほど負けていました。いろいろな意味で次回以降頑張りたいと思います。

(敬天愛人)

[ページの先頭に戻る ▲](#)